

第 142 回交流フロア運営会議（議事概要）

1 日時・場所

日時：2023 年 2 月 7 日（水）18：30～20：00

場所：伊丹市立図書館ことば蔵 1 階交流フロア

2 参加者数 20 名

3 会議内容

<新規提案>

（1）ことば蔵で風流を

【概要】

- ・ことば蔵で尺八と箏の邦楽演奏、講演と朗読を楽しむイベント。今回で 23 回目となる。
- ・内容は前回の第 22 回目とほとんど同じ。朗読会、郷土研究者による講演、邦楽演奏などを実施する。
- ・朗読は与謝野晶子の『源氏物語』。FM いたみのラジオパーソナリティが読み上げる。
- ・演奏する曲目を一部変更し、わらべ歌や民謡を追加する。身近な曲を演奏する方が参加者に楽しんでいただけたらと思う。

【意見】

- ・わらべ歌や民謡の楽曲は既に決まっているのか。身近な曲とのことなので、チラシに演奏する曲目を載せることで、楽曲に惹かれて参加いただける方が増えるかもしれない。
- 今すぐにはぱっと出てこないが、演奏する楽曲は決まり次第連絡する。

（2）気になる本で話そう GW 特別編

【概要】

- ・これまで、「気になる本で話そう」という、社会的なテーマの本を一冊決めて意見を交換するイベントを企画してきたが、ゴールデンウィークに子ども向けとなる特別回を開催したい。
- ・「防災」をテーマに親子で考えてみたり、知識を交換したりする場にしたい。
- ・普段の「気になる本で話そう」のように、自由にワイワイお話しするのではなく、ある程度企画者側で進行をしながら、参加者に話し合いをしてもらう形式を考えている。
- ・対象は子どもを中心に考えているが、大人も高齢者も参加可能。世代間の交流が生まれると嬉しい。
- ・真面目な内容であるが、ほのぼのした雰囲気で開催したい。
- ・開催時刻は午前中にする予定。
- ・取り上げる本は 3 冊を考えている。時間は子どもが集中できるよう、学校の授業時間と同じ 45 分で考えている。

【意見】

・対象は大人か、子どもかどちらかに絞った方が良いのでは。両方に配慮した内容を同時にするのは難しい。

→原則子ども向けのイベントであることはしっかり周知しようと思う。

・提出いただいた交流フロア図面ではブルーシートを広げるとあるが、靴を脱いで上がってもらうのか。プレイマットも用意できる。

→ブルーシートとプレイマットの大きさがよくわかっていないので、後日確認してから判断したい。

(3) 声で届ける朗読を楽しもう！『少年の日の思い出』

【概要】

・朗読サークル「赤とんぼ」のメンバーによる、朗読会イベントの発案。普段は市内公民館や社会教育施設で朗読の練習会や発表会、図書ボランティアなどの活動をしている。

・普段とは場所を変えて、図書館で朗読発表会を開催したらどうなるだろうと興味を持ち、今回の発案に至った。

・朗読する作品はヘルマン・ヘッセの『少年の日の思い出』。スムーズに読むと20分程度の作品。あのキメ台詞を誰が読むのか真剣に話し合っている。

・声を直接届けることを大切にしているので、マイクは使わずに発表したい。一方で、図書館の利用者も行きかう交流フロアで、地声がどこまで届くかは未知数なので心配。

【意見】

・6/19が朗読の日なので、開催日を合わせると面白いかもしれない。

→音楽も流す予定なので、蔵書点検で図書フロアが利用できない第一木曜日や、6月の特別整理期間に開催したいと思う。

・せっかく図書館で開催するのであれば、ヘルマン・ヘッセや朗読に関連する蔵書を展示したり紹介したりするのはどうか。

・話が変わるが「話し言葉検定」という検定があるので、イベント内で紹介すると朗読に興味を持つ参加者が増えるかもしれない。

(4) キッズサバイバー講座 防災キャンプ編

【概要】

・防災士の資格を持つ企画者が、実験や工作を交えながら防災についてお伝えする子ども向けイベント。

・今回で14回目の開催となる。前回1月に開催したキッズサバイバー講座が好評であったため、ほぼ同内容で行う。

・防災ランタンのワークショップ、テントの中に入って行う防災講座、津波や地震の仕組みについて学ぶ実験を実施予定。時間は90分の予定。実験についてはもう少し内容をまとめたい。

【意見】

・前回のイベントを見ていたが、テントの中に入る子どもたちが楽しそうで良かった。実験の内容を纏めるというのは、具体的にはどうするのか。

→実験内容としてはそのまま、順番や説明の仕方を整理したいと考えている。

・時事的な事柄として、能登半島地震を取り上げることで、災害を身近に感じてもらうのはどうか。

→キッズサバイバー講座では、子どもたちに恐怖心を与えないように心掛けている。本当は災害の恐ろしさも子どもたちに知ってほしい思いもあるので、キッズサバイバー講座とは別の企画で検討したい。

・90分も子どもの集中力が持つのだろうか。

→工作、座学、実験に分けているのだから、意外と最後まで元気に話を聞いてくれる。一番退屈しそうな座学を真ん中にしているのも、飽きさせないための工夫。前回初めて工作をはじめに持ってきたが、場が和んでよかった。

・テントの組み立てから子どもたちに参加してもらえば、もっと楽しんでもらえるのではないかな。

→大人でもテントの組み立ては楽しいのでとてもいい案だと思う。安全面の配慮が必要であるが検討したい。

(5) 普通救命講習会

【概要】

・キッズサバイバー講座とは別に、大人向けの普通救命講習会を開催したい。

・昨年より伊丹で救急救命のボランティア団体が発足し、定期的に消防局に代わり普通救命講習を実施している。それまでは、消防局が月に一回ほど市内施設で実施する程度だった。しかし、ボランティアによる講習も平日開催がほとんどで、参加できる人が制限されてしまっているという課題があり、土日のことば蔵で開催すれば地域のためにもなるのではないかと思い発案に至った。

・「応急手当普及委員」という資格を所持しているので、普通救命講習の修了証を参加者にお渡しすることができる。この修了証取得は「防災士」の受験資格にもなっている。

・イベントの内容は 普通救命講習と同内容。座学と実技の2部に分けて実施する。

・講習の所要時間は3時間ほど。午前中の開催を考えている。

【意見】

・普通救命講習は交流イベントと言えるのだろうか。

・講習だけで3時間は、イベントとしてはかなり長い。ことば蔵の開館が9時半であるため、3時間だとお昼にかかってしまう。

→ネット環境さえあれば、自宅でも受講できる事前講座で座学を代替できる。この場合、実技のみで2時間程度になる。ただし、講習の参加条件が事前講座を受講した人に限られてしまうため、ハードルが上がる。

・実技では、倒れている人への声掛けも練習するはず。大人が真剣に「大丈夫ですか！大丈夫ですか！」と声掛けをすると、結構な迫力がある。2階、3階の図書フロアの利用者が何事か

とびっくりするのではないかと。

→図書フロアに、1階がイベント中であることを伝えるお知らせボードを置くといいと思う。

・講習を受ける参加者とは別に、講習の様子を見学するだけの人も参加対象とするのはどうか。参加のハードルが下がると思う。普通救命講習がどんなものなのか興味のあるひとは参加したいはず。

→修了証はお渡しできないが、見学のみでの参加も可能。もう少しオープンなイベントにしてはどうか。

<イベント報告>

(1) おくすりとの上手な付き合い方～ポリファーマシーについて～

参加者は12人。薬の飲み合わせによる有害な作用「ポリファーマシー」についてお話しした。薬の飲みすぎや複数の併用リスクについて、知らない人が多かったため、お伝えできて良かった。

(2) いたみ文芸ことそうし

参加者は4人。自作の文章を持ち寄って、感想や意見を交わし合った。徐々に雑談をしているだけの時間が増えていることに課題を感じる。

(3) 防災ランタンをつくろう！キッズ・サバイバー講座～防災キャンプ編

参加者は7人。これまでは座学を中心に、親子で楽しめる講座内容を開催していた。今回は工作やテント内での座学など、初めての試みに挑戦してみたが、概ね好評で良かった。一方で、慣れない進行にドタバタしてしまったのは反省。

(4) 第10回吃音講座 言語聴覚士と吃音

参加者は17人。言葉と聞こえの専門家「言語聴覚士」を招き、吃音について講演いただいた。また、大阪や福井の言友会の協力も得ることができた。オープンスペースである交流フロアで講演できたことが、講師を務めていただいた方々にも好評だった。第11回もぜひ開催したい。

(5) 漫画を語ろう

参加者は7人。テーマは「新年一発目せっかくだから漫画の名言について語る回」。企画者も知らないようなマニアックな漫画がたくさん紹介されて盛り上がった。次回は2月28日18時30分。テーマは「うるうる」で開催。

(6) 気になる本で話そう『いつ大災害が起きても家族で生き延びる』

参加者は13人。能登半島の地震で防災意識が高まったのか、いつもよりも参加者が多かった。テーマの本について話し合う企画であったが、テーマ本を事前に読んでいた人はいなかった。イベントでは、参加者の被災経験を元に防災について話し合った。